



シモマッチの 校長随想

～教育は過去からの贈り物、そして未来へのメッセージ～

下町壽男 前岩手県立花巻北高等学校長

第2回

「教師は生徒に育てられる」

以前、私のブログに、M高で初めて担任をしたときの教え子のRさんからこんなコメントをいただいたことがありました。

「あの頃のM高は、大学進学命！で、授業はどんどん進んでいくし、朝から晩まで詰め込みの毎日。私は好きだった勉強が苦痛で仕方ありませんでした」

今となつては、そんな学校を変革できなかった私の力不足を恥じるばかりです。

□進学校に初めて勤務して

私がM高に赴任した時、3年生の演習の授業を担当しました。その最初の授業のことは今でも覚えています。前任者から問題集を預かり、最初に行う問題を引き継ぎました。初めての進学校だったので、私は気合を入れて予習をしました。そして、単に問題の解法をなぞるのではなく、いろんな話題も用意し授業に臨みました。

授業が始まり、問題を板書したところ、生徒から「その問題ではありません」との声が。一瞬息が止まりました。故意ではなかったとは思いますが、全く違う場所を前

任者から指定されていたんですね。それらが大変。初見の問題をその場でやることになりました。焦りました。私を値踏みするような生徒の視線を感じます。掌に汗がびっしょり。気がつくとき、その掌の汗の跡が黒板に点々といっていました。ああ。進学校という生き馬の目を抜く世界に足を踏み入れたんだなあと思いました。

私は「数学通信」をつくり始めました。数学のトピックス記事、教科書の問題を掘り下げる話題、懸賞問題など、生徒のモチベーションを高めるような内容です。その「数学通信」を印刷していると、しばしば数学科の同僚がのぞきにきます。自分のクラスだけ成績が上がるような、テスト対策プリントを作っているのではないかと勘繰られるのです。「数学通信」だとわかると、なあんだと去って行きます。ご丁寧に「そんなことやるとかえって成績が悪くなるよ」と忠告されたときもありました。それでもやり続けていったのは、私の授業を楽しんでくれる生徒たちがいたからです。

3年生の最後の授業を終えたとき、ある

生徒から、こんな手紙（写真）をもらいました。彼女は家庭の事情で進学ができない生徒でした。

私はこの言葉に勇気づけられました。

また、ある生徒から、お手製のお菓子と一緒にいただいた手紙にはこんなことが書かれていました。「先生お疲れの様子ですが大丈夫ですか。でもそれは私たちのせいでもあるんですね。迷惑かけてすみません。先生ガンバース！」

下町先生
卒業式を控えて今までのことを振り返った時に、下町先生にお礼を述べたくなりました。先生の英数学の授業のおかげで私の英数学に対する気持ちがぐっと変わったからなんです。先生の問題を解くたびに「よしよし」と思わない、なくて深い知識は、英数学の難しさではなく、おもしろさを強調してくれました。それは解法よりずっと大事なことでないかと感じました。（と私が言うのは厚かましいですね）
たとえ睡眠におそわれても、数学を好きなきっかけは変わりませんでした。先生の想像の世界も楽しかったです。想像力のない人と付き合うことほどつまらないことはない、という人生の教訓を学びました。初めて教師という職業に魅力を感じた。下町先生の授業をもう受けられないのは本当に残念です。本当にありがとうございました。
3.6.36

私が現実と理想の狭間でもがいていることを敏感に察知して励ましてくれたのだでしょう。その健気な姿と真直ぐな思いに涙があふれました。私は、生徒を育てていると思いつながら、実は生徒に育てられていたんだと、あらためて痛感しました。

私のM高時代の宝物は、そんな生徒たちからもらったたくさんの手紙です。そして、その内容はほぼ同じでした。それは「大学進学」を錦の御旗に問答無用で行われる、トレーニング型授業に対する悲鳴です。そして、そのような中、私の授業に出会ったことを素直に喜んでくれるものでした。

私が今、アクティブ・ラーニングの機運を捉えて、教師のマインドセットの変革を訴え続けているのは、このときの生徒たちの思いを背負っているからだと思います。

□ 教え子に二度助けられる

さて、昨年の年度初め、またRさんからブログにこんなコメントをいただきました。

「今年度は、明るく、笑顔いっぱい毎日過ごすことが一番の目標です。教師だって人間ですから、気分が乗らない日もあると思います。でも、それでも子どもたちの前で笑っていられるようにしたいです。単純なことですが、毎日続けるとなると、今までの私には難しいことでした。主体的・対話的な学びをしたいと思って、本を読んだり、研究授業に参加することばかりに目がいついていた気がします。もしかしたら、根本的なことを忘れていたのかなと気づきました」

理屈や理論ではない。子どもたちの前で、笑顔でいることが一番。このコメントが届いたのは、私が新年度の学校経営について眉間に皺を寄せて悩んでいる最中でした。まさにこれは、そんな私を励ますメッセージでした。ああ。やっぱりまた私はRさんから力をいただいた。教師と生徒は成長をともにする同志。そして、しばしば、両者は反転する。Rさんは、私と同じ教師として教壇に立ち、そして今もなお、私を勇気づけてくれる存在です。